

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡山市立江西小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 ()

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒709-0854

岡山市東区瀬戸町江尻 1399-2

E-mail kousais@city-okayama.ed.jp

Website http://www.city-okayama.ed.jp/~kousais/

幼児児童生徒数 男子 303名 女子 282名 合計 585名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「ふるさと江西を受け継ぎ、未来へつなげるプロジェクト」を学校理念として、ESDを地域に根付く文化と捉え、ESDの実践を通して地域を支える人々の思いや仕事について理解をする力の育成を目標とした。

具体的には、環境とのかかわり、人とのかかわり、自分のことを柱に、①学校や身の回りに係わる活動、②自分たちの生活に係わる活動、③農業に係わる活動、④自分の将来に係わる活動を行った。

① 学校や身の回りに係わる活動

学区にある公園での生き物や植物等を観察する活動や花や野菜などを栽培する活動を通して、江西の自然のすばらしさに気付かせるようにする。また、採集してきた物を活用する活動を行ったり地域の方々と触れ合ったりすることで、さらに自分たちの暮らす地域のすばらしさを実感できるようにする。

② 自分たちの生活に係わる活動

自分たちの暮らしている瀬戸町についてどのような場所があり、そこで人々がどのように生活をしているか知るために学区の探検に出かける。また、ごみの分別やリサイクルについて学習して自分の生活と結びつけて考えたり、ゲストティーチャーを招いて話を聞いて自分の生活を見つめ直したり、よりよい社会にしていくためにすべきことを考えたりすることができるようにする。

③ 農業に係わる活動

米作り・米の文化について調べたり、講師として瀬戸南高校の生徒を招いて田植えや稲刈り体験をすることを通して、自分たちの食生活や身の回りの環境について考えるようにする。育てたお米を収穫し、自分たちで調理を計画実行することで、食料生産に従事している人々の工夫や努力、食べ物のありがたさを実感できるようにする。

④ 自分の将来に係わる活動

自分の夢・あこがれている人・将来なりたい仕事について調べたり、夢を実現させた人の話を聞いたりすることで、将来に向けて今の自分ができることを考える。夢を実現させることについての意見交換を行うことで、考えを深め合うことができるようにする。



① の写真（自然観察）



② の写真（紙の大切さを知る）



③ の写真（田植え）



④ の写真（講演会）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<ul style="list-style-type: none">・ 学校田んぼのおもしろ授業（農文協）・ 日本の農業（岩崎書店）・ イネを育てる（金の星社）・ 生きもの探偵帳（瀬戸町） など
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校は、瀬戸南高等学校やIPU等の各種学校や公民館、図書館、区役所（支所）等の公共施設が身近にあり、学習の支援ができる人材が豊富である。交流は毎年続いており、地域との繋がりが積み上げられてきている。保護者や地域の方は、地域に愛着のある方が多く、教育活動に積極的に参加し、学校を支える風土がある。そこで、人的資産を生活科、社会科、理科、総合的な学習の時間などの指導計画に位置づけて実践する。児童が身の回りにある様々な「環境」「人」そして「自分」との繋がりを探り、地域に根付く人々の営みや文化や自然を発見したり、それらについて自分の生活とのかかわりや将来について考えたりすることができるようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学区内にある瀬戸南高校や幼稚園との交流を毎年行うことで、児童と地域の繋がりが積み重なり、児童が地域の方の必要性を感じ継続して活動することができるようにするために、管理職同士の協議、教育実践に向けた担当職員同士の協議、連絡、調整、打ち合わせを大切にしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価アンケートを行っている。学校教育全般を問うものだが、その中に「子どもの郷土（住んでいる地域や岡山市）を愛する心が育ってきていると感じるか」を設定し、保護者に聞いている。この項目では今年度 72.5% が肯定的回答であった。昨年よりも 7.9 ポイント増えているものの約 1/4 強の児童にとって取り組みの意図や生き方を変えようとする力まで及んでいないかもしれないと思われるので、今後とも有意義な活動となるよう考慮していきたい。ユネスコスクールとしての活動を継続すること、活動の目的を明確にして事後指導の中で活動価値について振り返りをしっかりさせるようにすること、自分の学習や取り組みを記録し保存して自信につなげていくようにすることなどが課題として考えられる。よくできているという声が多かったが、例年通りの活動や交流になり児童の関心に沿った交流になっていないこともあること、授業と関連づけることが難しく問題解決的な展開を考慮した交流となるように見直す必要があるという意見もあった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動を行った後、まとめとして発表会や新聞づくりなどを行った。体験したり話を聞いたりして分かったことや感じたことを同学年の児童、異学年の児童に見てもらった。同学年の児童は同じ経験をしていても感じ方は人それぞれであること、異学年の児童はどんな活動をしているのか知ることができた。また、活動を学校だよりや学年・学級だより、ホームページに掲載することで家庭や地域の方にも活動を知ってもらえるようにした。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

教師が教える概念的な指導に加えて詳しく、具体的に分かりやすく学ぶことができるようにゲストティーチャーとして社会福祉協議会や老人クラブの方などと連携をして活動を行った。また、連合町内会と連携して、防災キャンプを行った。学校だけでは準備できない用具を準備していただいたり、普段では体験したり聞いたりすることのできないことをしていただくことができ、実感を伴う学習となっている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

中学校区内の1中学校、2小学校、3幼稚園、4保育園の活動の様子を紹介するリーフレットを作成し、全家庭に配布した。それぞれの具体的な活動を知ることによって、同じ地域に生活する児童・生徒や保護者がユネスコスクールの理念を共有することができている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

社会の中で職業に就いて汗を流している人の喜びや苦労話を直接聞いたり、映像をとまなう具体的な仕事内容を知ったり、野菜や米づくり体験を通して、地域の人・自然・物作りを身近なこととして捉えたりすることができた。体験したことがきっかけとなり、本などを使って関心を持ってより詳しく調べてみようとし、調べたことや感じたことなどを友達に伝え合う姿が見られた。学習したことがその時だけで終わるのではなく、自分のこれからの生活につなげようとする姿に表れるようになった。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

1年

自然観察、虫・植物採集、公園・幼稚園で遊ぶなどの活動を通して、自分たちの身の回りのことを知る。

2年

学区内の高校生と一緒に野菜を育てることで、異年齢の交流で優しさや温かさを感じ、物を育て収穫する喜びを体験する。

3年

自分たちの暮らしている瀬戸町について、どのような場所があり、そこで人々がどのように生活をしているか知るために、学区の探検に出かける。

4年

社会福祉協議会と連携して車椅子・アイマスクの疑似体験をしたり、盲導犬友の会と連携して話をきいてインタビューをしたりしてバリアフリー社会について考える。また、紙のリサイクルについて話を聞いて自分の生活を見つめ直したりエコについて考えたりする。

5年

米作り・米の文化について調べたり、田植え・稲刈り体験をすることを通して、自分たちの食生活やこれからの食糧生産のあり方について考えたりする。

6年

あこがれている人・将来なりたい仕事について調べたり、夢を実現させた人の話を聞いたりすることで、将来に向けて夢をもち今の自分ができることを考える。